



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2020年2月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年も参加園と保育関係者が集い、より良き保育づくりのための
情報交換と交流を行う「全国集会 & 研修会2020」が開催されました。
今回も多くの方にお集まりいただき、本当に有意義な会合となりました。

今月号では、その開催レポートをお送りします。

新型コロナウイルス感染症の対応でお忙しいところ恐縮ですが、
ご覧いただければ幸いです。

(目次)

1. 「全国集会 & 研修会2020 in 東京」開催レポート
 2. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート
- * どんぐり博士の育苗日記 (2020年2月号)

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟	NPO法人 富良野自然塾
(公社) 大谷保育協会	(公社) こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー	国際校庭園庭連合日本支部
(公社) 国土緑化推進機構	(一社) 日本森林インストラクター協会



1. 「全国集会&研修会2020 in 東京」開催レポート

2020年2月13日(木)、14日(金)の両日で、J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2020 in 東京」(以下、集会と表記)が開催されました。今回の開催テーマは、今、世界的に機運が高まっている「園庭緑化」です。園庭を、子どもたちの単なる運動の場ではなく、多様な自然の体験を提供するフィールドとして改善していこうという活動です。これまで「園庭緑化」に関心がありながら、最初の一步が踏み出せなかった保育者に対して、そのきっかけを提供できればと思っただけの開催です。「園庭緑化」の活動では、既にすぐれた研究や実践が行われています。今回の集会では、そんな研究や実践の中で代表的な方々にご出講いただき、参加者の方々に、そもそもの基本情報をご提供いただきました。以下、開催レポートです。

<開催概要>

1. 日 時：2020年2月13日(木)13:00~18:00 2月14日(金) 9:00~12:00
2. 会 場：「大田区産業プラザPIO」東京都大田区南蒲田1丁目20-20
3. 主 催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(子森ネット)
4. 共 催：J P 子どもの森づくり運動「全国集会2020」実行委員会(幹事園：新宿こだま保育園)
5. 特別協賛：日本郵政グループ
6. 後 援：(公社)こども環境学会 国際校庭園庭連合日本支部
7. 協 力：保育環境研究所ギビングツリー(公社)全国私立保育園連盟 (公社)大谷保育協会
8. 参加者数：保育園、幼稚園、こども園職員、及び保育関係者 60名

【一日目】



【基調講演】園庭緑化の意義について

保育環境研究所ギビングツリー 代表

「新宿せいが子ども園」園長 藤森平司先生

* 主なご講演項目

- 五感を刺激する園庭
- 園庭・屋外での保育の可能性
- 園庭・校庭の条件
- 環境設定の上で留意したいこと
- フレールが考える園庭
- 海外の園庭・校庭
- 森や自然は可能性を無限に秘めた最高の保育環境、他

【講演2】園庭緑化の現状について

東京大学発達保育実践政策学センター 園庭調査研究

グループ「園庭研究所」代表 石田佳織氏

* 主なご講演項目

- 園庭の物理的環境と子どもの育ち
- 自然の中での子どもの育ち
- 園庭や地域の物理的環境
- 樹木や草花など植物環境について
- 樹木や草花など植物環境について、工夫されている環境構成や使い方
- 樹木や草花など植物環境についての課題
- 安全・危険について





【講演3】自治体による森と自然を活用した保育・幼児教育の新たな潮流 ～園庭緑化の推進に向けて～

公益社団法人国土緑化推進機構

政策企画部 政策企画課長 木俣知大氏

* 主なご講演項目

- 「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」
- 先進国における「森と自然を活用した保育・幼児教育」
- 我が国の各種要領・指針における自然
- 先行県等による取組の動向
- 今後の展望

【実践講座】幼児(少)期の自然・環境体験講座

ネイチャーゲームインストラクター 子森ネット事務局長 塚原 茂

一日目の最後に、J P 子どもの森づくり運動が、今、何故「園庭緑化運動」に取り組むのか、その基盤となる J P 子どもの森づくり運動の取り組みと活動の意義、さらに、これまで取り組んできた自然体験講座の実践事例としてネイチャーゲームについて発表させていただきました。

【二日目】



【基調講演】園庭緑化の意義と国際的動向

国際校庭園庭連合日本支部 代表

鶴見大学短期大学部 保育科 准教授 仙田 考先生

* 主なご講演項目

- 子どものあそび環境の現状と課題
～自然とのふれあいの意義
- 園生活における自然とのふれあいの体験と環境
- 園庭緑化の可能性—なぜ園庭はこども達に重要？
- あそび緑化のすすめ
- 園庭改善のプロセス

【事例報告】園庭里山化

東京ゆりかご幼稚園 園長 内野彰裕先生

「東京ゆりかご幼稚園」の内野園長先生には、J P 子どもの森づくり運動の当初から活動にご参加いただきました。今回は、「園庭里山化」をテーマに、その素晴らしい園庭について事例をご報告いただきました。参加者にはとても刺激的な事例発表だったようで、多くの参加者から園庭見学の希望がありました。後日、実現したいと思います。

*「全国集会&研修会2020 in 東京」の開催レポートは、ホームページにも掲載しております。よろしければご覧ください。



2. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート

●埼玉県「児玉保育園」東北の“どんぐり”を見送る活動

- ・日時：2019年5月14日(火) ・場所：自園園庭 ・参加者：年長「きりん組」33名 ・インストラクター：神座さん
- ・日本郵政グループ参加者：「児玉郵便局」服部さん「ぼすくま」（詳細は、ホームページをご覧ください。）



神座インストラクターに手伝ってもらって育てた東北の“どんぐり”を箱詰めしました。



日本郵便のキャラクター「ぼすくま」くん登場



苗木が入っている「どんぐりの絆BOX」を「ぼすくま」くんに手渡しました。



最後に、みんなで記念撮影です。

●どんぐり博士の育苗日記(2020年2月号) ～育苗から育樹、そして～

どんぐりから苗を育て、それを植樹し樹へと生長させます。さあその先はどうなるのでしょうか？ 明確な答えはありませんが、一つの具体例をお話します。 子森ネット森林インストラクター：河内和男（どんぐり博士）



長らく私の育苗に関する文章を掲載してきましたが、この3月で、私の担当するコラムは一度終了すること決めました。私のつたない文章にお付き合いいただきましてありがとうございました。

残り2回は、育苗のずっと先の話をする。私は現在、福島県にある女子大学の附属高校で教鞭を執っています。現在の高校の校舎は昭和40年代後半に建築されたもので、ピーク時には生徒数が1000人を超すマンモス校でしたから、かなり広い敷地を有しております。そして、校舎の建設当初から植樹された木々が、50年近くの時を経て立派な大樹へと育っています。

敷地を囲むように、カシ類、メタセコイア、ケヤキなどの高木となる木が植えられ、校庭沿いにはサクラも多数有ります。校舎沿いにも樹陰をつくるように高木が有り、その間に植えられた花木がそれぞれの季節を彩っています。環境を大切に創設者の意思をついで、これらの木々はないがしろにされることなく、毎年業者が高所作業車を用い、きちんと手入れしています。また、大量の落ち葉が発生しますから毎年冬休みの半日を使い、全職員と部活動の生徒（全生徒の2/3程度）で落ち葉集めや、敷地周辺の美化活動を行っています。私など、敷地外側の側溝中の落ち葉片付けに嬉々として取り組み、他の先生方から少し引かれておりましたが。

校舎沿いの木々は、三階のベランダの高さに合わせて剪定され、三階からは遠くが望め、二階ではケヤキやカシの大きな樹冠を手が届きそうな距離で感じることができます。このことを意識しているのは私くらいのものでしょうか、多感な生徒たちは、無意識のうちにも、木々の葉擦れの音や、風に揺れる枝葉などから、自然観が養われ、人格形成の礎づくりに寄与しているものと、私は信じております。